

【経済学史・社会思想史】 益永 淳 ゼミ



演習テーマ： 経済問題を経済学の歴史から考える

「アベノミクス」で日本経済の回復が期待される一方で、雇用および財政などの問題は依然として楽観を許さない状況です。就職活動を控えるみなさんにとっても人ごとではありません。そして、これらの問題に対しては、様々な人が様々な立場から様々な見解を示しています。しかし、一体どれが(より)正しいのでしょうか。

この場合、みなさんは、雇用問題、金融問題、財政問題などに関する様々な人々の提案の内容を知りたいと思うでしょう。もちろん、それはとても大事なことです。しかし、通常それらの提案は、人間や経済に関するその人の見方に大きく影響されています。

例えば、人間は金のためだけに働くのか、それともやりがいも求める存在なのか、失業はその人のヤル気の問題なのか、それとも市場経済の構造上の欠陥から生じるのか。どちらの立場に立つかによって、雇用問題に対する考え方も大きく変わってくるでしょう。このように、何が(より)正しいかを判断するためには、論者の意見の背後に潜むその人の価値観に光を当てなければなりません。

経済学の歴史を勉強するということは、過去の経済学者の市場経済観や人間観を学ぶということです。そして、市場経済や人間に対する考え方自体は、昔も今もそれほど異なっているわけではありません。その証拠に、現在の様々な政策提言の背後にある経済や人間に対する見方は、大抵は過去の経済学者たちによってすでに提示されたものと言ってもよいくらいです。

しかも、過去の経済学では、現在の経済学のような複雑なグラフや数式があまり出てこないのです。みなさんが経済や人間に対する見方を鍛え上げていく際に、とても勉強しやすいでしょう。

現在の経済問題に対して自分なりの意見をもつためにも、経済学の歴史を学んでみませんか。

<活動内容およびゼミ紹介>

主な活動内容は、毎週のゼミ活動、3年次のプレゼン大会、インナー・インター大会への参加、4年次の演習論文作成です。また、ゼミ懇親会やゼミ合宿やOBOG会などの課外活動も積極的にやっています。勉強とレクリエーションのバランスのとれた楽しいゼミを目指していますので、興味のある方は是非とも応募してみてください。